

第1回 安城市民ギャラリー運営委員会

令和8年5月20日（水）

午後3時～午後4時30分

歴史博物館 講座室

出席者

委員：近藤会長、丸山副会長、柴田委員、三浦委員、香村委員、加藤委員

事務局（市）：石川教育長、澤田生涯学習部長、朝岡文化振興課長、平井課長補佐、
谷村主査、永坂主事、岡戸社会教育指導員

指定管理者：小野総括責任者、井上副総括責任者

1 委嘱辞令交付

2 あいさつ

3 正副会長の選任

近藤委員が会長、丸山委員が副会長に選任

4 協議事項

（1）令和7年度安城市民ギャラリー利用状況について（2～7頁）

	（指定管理による説明）
委員	展示室Cの利用が少ないのは、ガラスケースの影響か。
指定管理	立体作品などではよくご利用いただいているが、平面作品の場合反射してしまったり作品と鑑賞者の距離が生まれたりすることをご意見としていただくことはある。しかし、水彩画や絞り染め体験など、講座で制作した作品を展示するなど、自主的なC室の活用には取り組んでいる。

（2）令和7年度安城市民ギャラリー事業報告について（8～18頁）

	（市、指定管理による説明）
--	---------------

教育長	ことごとキャラバン実現のいきさつは？
指定管理	県内の幼児教育を教えている6大学がチームとなって、幼児向けのものづくりやアートを学生たちが教える講座を開催しており、複数の自治体で実績がある。今回、幼児向けの芸術に触れる機会を設けるために安城市でも開催することができた。
教育長	学生は安城市の子か？
指定管理	おそらく県内の学生。
教育長	部活動の地域展開に伴い、こどもたちにアートの楽しさを教えてみたい人を探して大学にアプローチをかけている。学生のような、こどもにとって少し歳が近い人のほうがこどもたちも接しやすい。
指定管理	大学によっては、地域と学生の交流を前向きに考えているところもある。
委員	様々な講座を展開している。ぜひ受講生は作品を制作したらそれを展示される経験もしてほしい。それがさらに新たに興味を持つ市民を増やすことにつながる。 また、様々な画材に触れる機会をもつのはよいことだが、中学生美術講座はなぜ中学生のみが対象？
事務局	通常的美術講座は中学生を除く15歳以上を対象としているため、中学生部活動の地域展開に伴い講座だった。「中学生」というタイトルがあることで、生徒たちが参加しやすい工夫もあるが、対象年齢をすこし広めることも検討したいと考えている。
委員	高校生の美術講座の参加実績はあるのか。
事務局	現時点では高校生の参加は見られない。
委員	中学生美術講座の受講者が少ない様子。中学生の子にとって美術に触れる機会は貴重だと思うが、なかなか伝わらないものだろうか？
事務局	文化部活動の中には、友達との交流を大切にしており、美術部でも美術が好きとは限らず、アプローチ先が難しい。興味をもつことの醸成から働きかけなければならない。ぜひ地域のみなさまのお力添えをいただきながら、広報を続けていきたい。

委員	生徒たちは木炭に触れる機会はありません、ピンときていない可能性もある。興味を持ってもらえるよう、授業で取り入れていたりもしているが、子どもたちは楽しそうに木炭を使っていた。こうした講座の情報は教員に流してもらえるのだろうか？
事務局	学校への情報提供方法はルールで定められており、個別対応は難しい。できる情報提供はさせてもらっている。
教育長	子どもに対して影響力が強いのは教員。教員のみんなにもぜひ様々な取り組みがあることを知ってもらいたい。市はSNSや広報などなにかしらの発信をしている。
委員	造形部会などでの宣伝が、一番教員に伝わるだろう。
委員	子どもたちには、様々な画材で、いろいろな経験をしてもらいたいと思う。

(3) 令和8年度安城市民ギャラリー事業計画について（19～22頁）

	(市、指定管理による説明)
委員	切り絵を授業で取り入れるので宣伝したいと思う。
委員	美術における授業の指導要領はどんなものか？
委員	立体、平面、デザインといったカリキュラムを3年間でバランスよく組み合わせる必要がある。授業の内容は教員が検討している。
事務局	子どもたちが興味を持つにはどんなタイトルがいいか？
委員	木炭であれば「リアルな絵を描けるようになろう」など、専門的な言葉より、どんなことができる講座なのかを訴えた方が、イメージがわきやすいだろう。また、実際の作品や写真などがあるとより伝わると思う。
事務局	学校のみならず、地域のみならずのお力添えをいただきながら、子どもに興味をもってもらえるような工夫を引き続き検討していく。

5 連絡事項

第2回安城市民ギャラリー運営委員会 11月予定